

令和元(2019)年度前期授業改善アンケート集計結果

2019年11月6日
教務委員 京相 雅樹

1. データ概要

表1 概要

集計科目数	21科目 (H30:21, H29:23, H28:17, H27:17, H26:22, H25:19, H24:15, H23:16)
平均回収率	80.1% (登録者数に占める割合) (H30:85.0%, H29:90.8%, H28:88.0%)
実施日	2019年5月21日～7月23日

2. 各項目の評価点

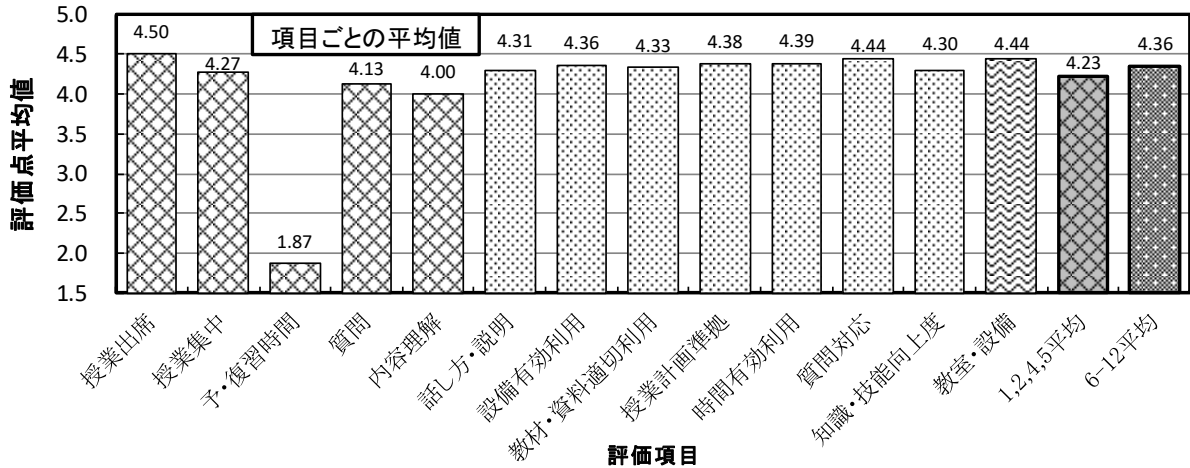


図1 平均評価点

表2 アンケート項目

●学生として		●授業について	
①	遅刻や欠席をせずに出席しましたか	⑥	話し方や説明は分かりやすかったですか
②	居眠りや私語をせず授業に集中しましたか	⑦	コンピュータ、黒板などの使い方は適切でしたか
③	授業1回に対し宿題を含めた予復習を何時間しましたか (右の数字は時間)	⑧	教材(テキスト、プリントなど)の使い方は適切でしたか
④	わからないときに質問をしましたか	⑨	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか
⑤	授業の内容は十分に理解できましたか	⑩	授業時間を有効に使っていましたか
		⑪	質問に適切に対応してくれましたか
		⑫	総合的にみてこの授業で力は付きましたか
		●施設について	
		⑬	教室の広さや設備は適切でしたか

※ 平成29年度から「授業評価アンケート」となり、質問項目が変更された

3. 対応するアンケート項目の年次推移

表3 対応する項目の年次推移

	集計科目数	学生(1-5)	教員(6-12)	①授業出席	④質問	⑤理解	⑥聞き取り易さ	⑦設備有効利用	⑧配布資料等	⑨授業計画準備	⑪理解度確認・質問受付
2011年度前期	16	3.95	4.24	4.33	3.65	4.01	4.28	4.34		4.21	4.32
2012年度前期	15	4.06	4.42	4.31	3.82	4.19	4.49	4.53		4.43	4.17
2013年度前期	20	3.63	4.15	4.36	3.22	3.65	4.24	4.21	4.06	4.14	4.24
2014年度前期	23	3.68	4.16	4.39	3.28	3.72	4.25	4.21	4.14	4.12	4.12
2015年度前期	21	3.77	4.20	4.47	3.33	3.82	4.28	4.26	4.20	4.16	4.17
2016年度前期	17	3.89	4.26	4.47	3.57	3.92	4.34	4.31	4.22	4.22	4.16
2017年度前期	23	4.05	4.24	4.52	3.66	3.89	4.26	4.26	4.18	4.30	4.29
2018年度前期	21	4.17	4.34	4.56	3.99	3.99	4.25	4.34	4.34	4.41	4.47
2019年度前期	21	4.23	4.36	4.50	4.13	4.00	4.31	4.36	4.33	4.38	4.44

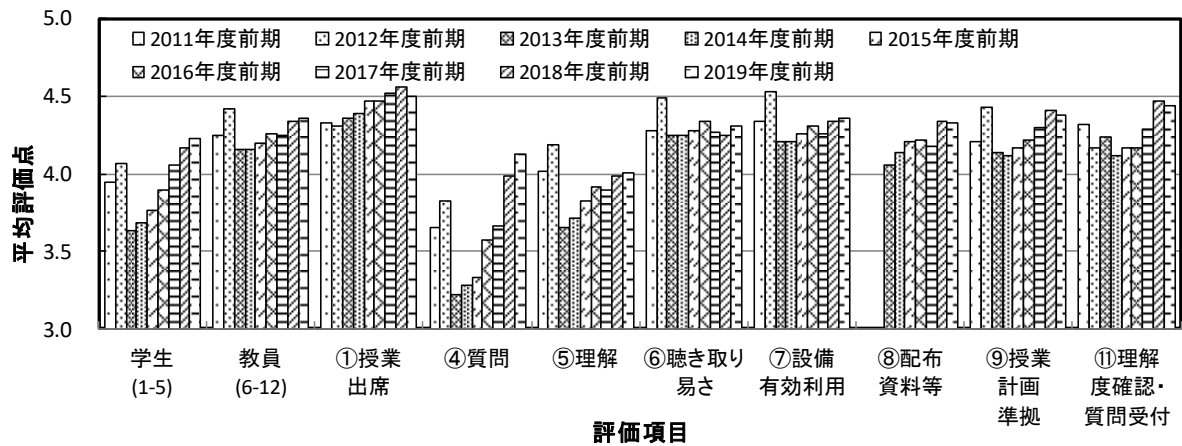


図2 対応する項目の年次推移

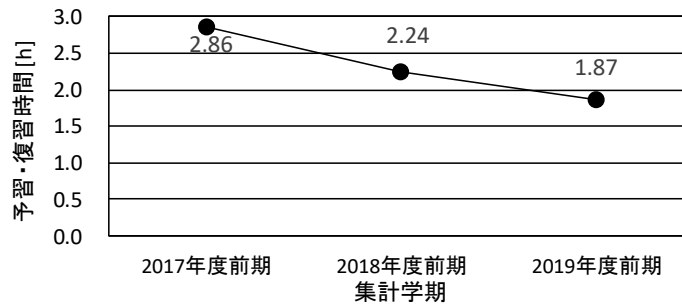


図3 予習・復習時間の年次推移

4. 科目ごとの詳細データ

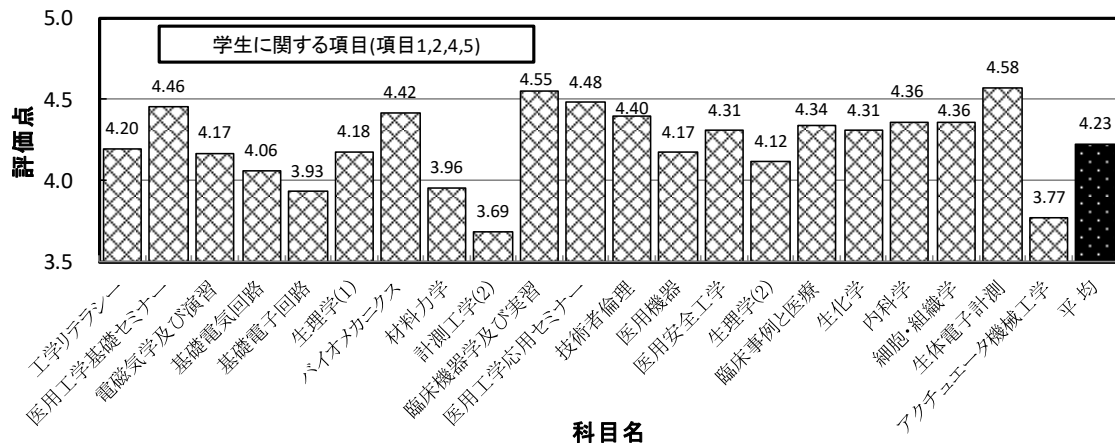


図4 学生に関する項目の平均値(科目ごと)

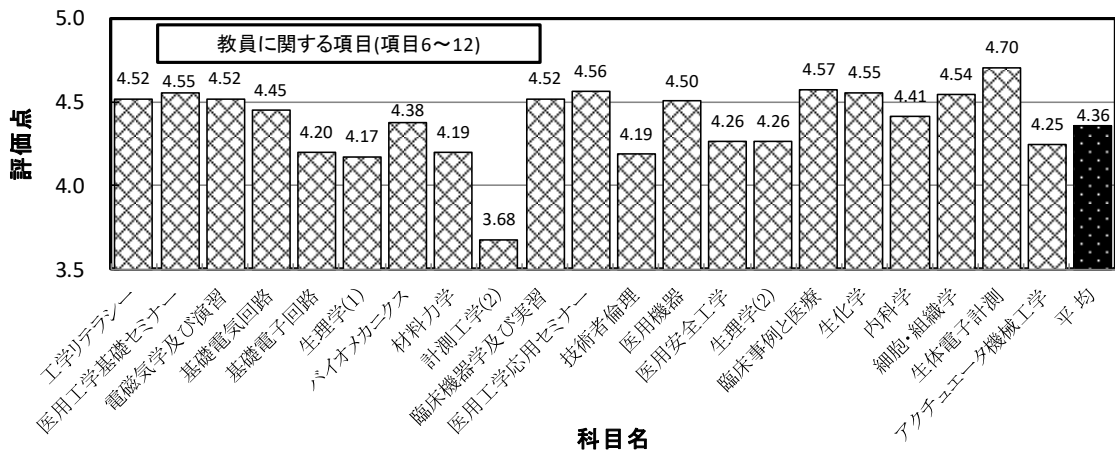


図5 教員に関する項目の平均値(科目ごと)

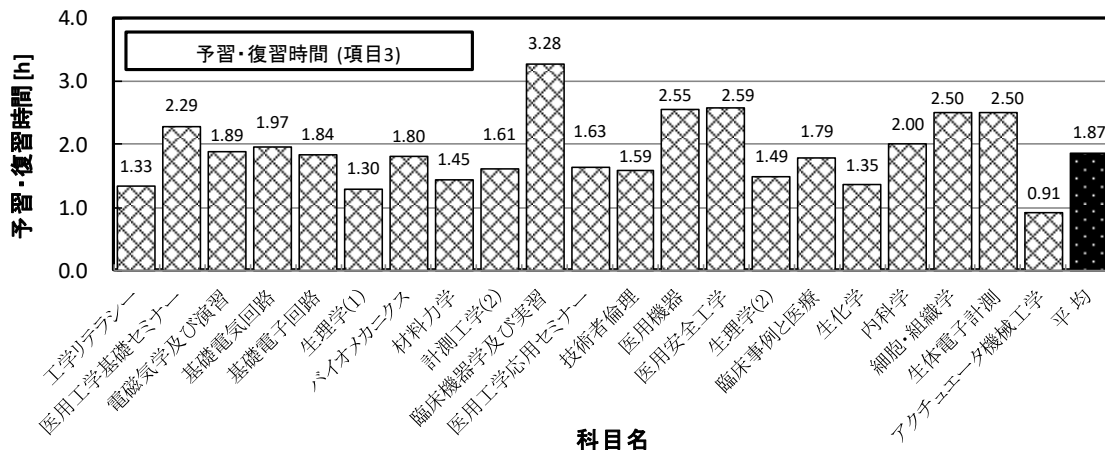


図6 予習・復習時間(科目ごと)

5. データについての考察

5.1 平均評価点について

図1に示された項目ごとの平均評価点について考察する。項目番号とアンケート項目の対応は表2の通りである。

(1) 項目3：予習・復習

実習科目を含めて集計しているが、1科目平均4時間にはまだ遠い状況である。

(2) 項目4，5：質問，理解

これまで評価点が低かったが、平均で4点に達しており、ある程度の水準に達したと言える。

(3) 項目6～12：教員に関する項目

平均で4.36となっており、平均的には高い水準にある。科目ごとのばらつきがあるので、平均を下回っている科目について改善を加えることにより、さらに向上することが期待される。

5.2 データの推移について

表3，図2より、「聞き取りやすさ」以外の項目は年々向上していることが分かる。「聞き取りやすさ」の項目はここ数年変化がなく、どのような改善が考えられるのか、検討する必要がある。「授業への出席」については飽和状態となっているが、これは出席登録システムの定着によるものではないと思われる。

また、図3より、予習・復習の時間は年々低下していることが分かる。これについては、シラバスに記載する予習・復習内容をより具体的なものとするとともに、学生のその内容をしっかり確認するように周知することで改善できるのではないかと考えられる。

5.3 科目ごとの評価について

図4，5より、科目ごとに評価点にばらつきがあることが分かる。各教員は、別表の詳細データをもとに、どの項目をてこ入れすべきかについて考察することにより、次年度の実施に向けて改良を効率的に行うことが可能となる。

図6より、予習・復習に費やす時間は科目ごとにばらつきがあり、特にレポートを課す科目で長くなる傾向にあることから、授業外の学習時間の多くはレポートの作成に費やしていることが分かる。

5.4 その他の要検討項目

- ✓ 授業外学習時間の改善
- ✓ 実験・実習用機器の整備・更新
- ✓ 成績等の教育関連データの活用